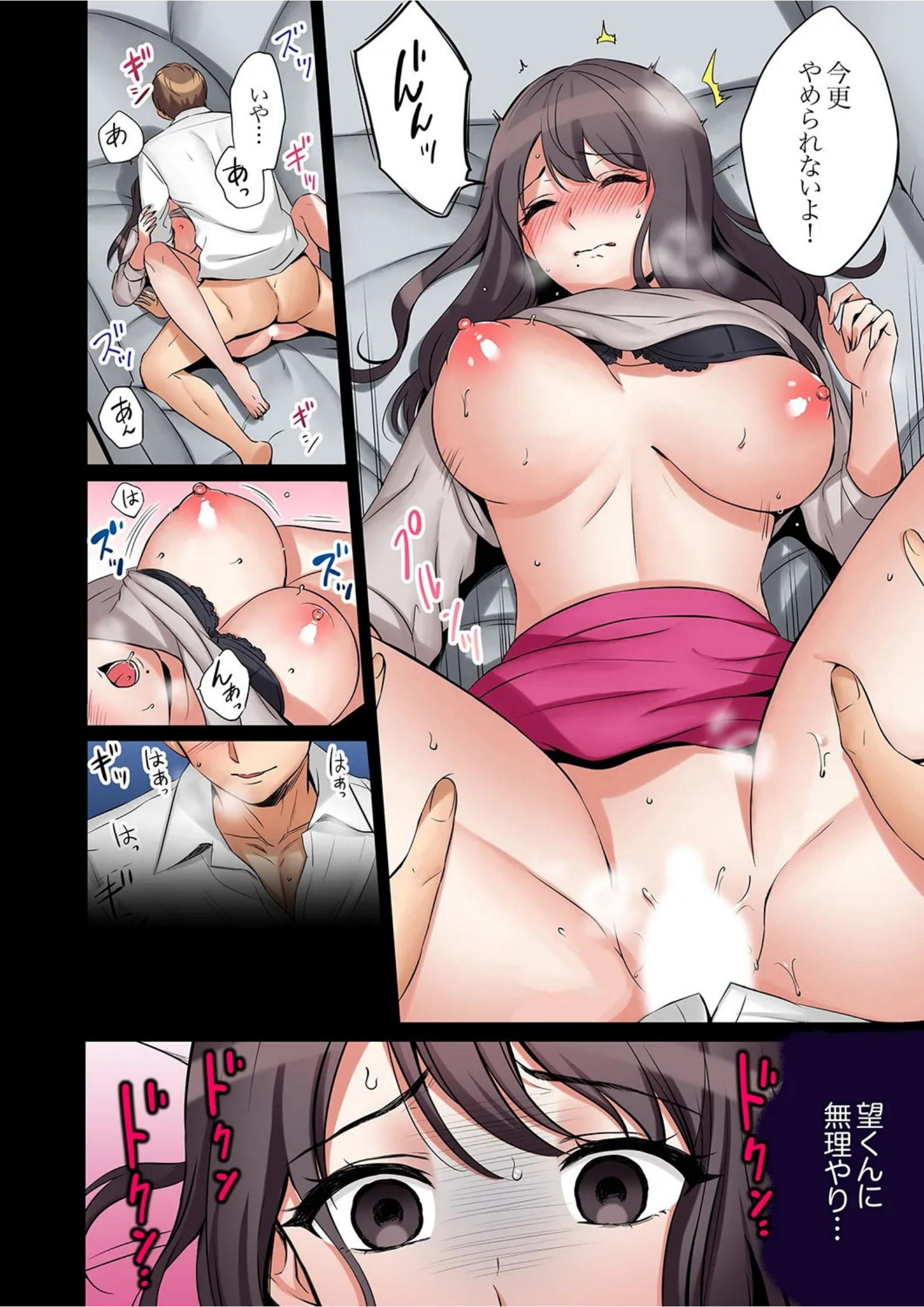
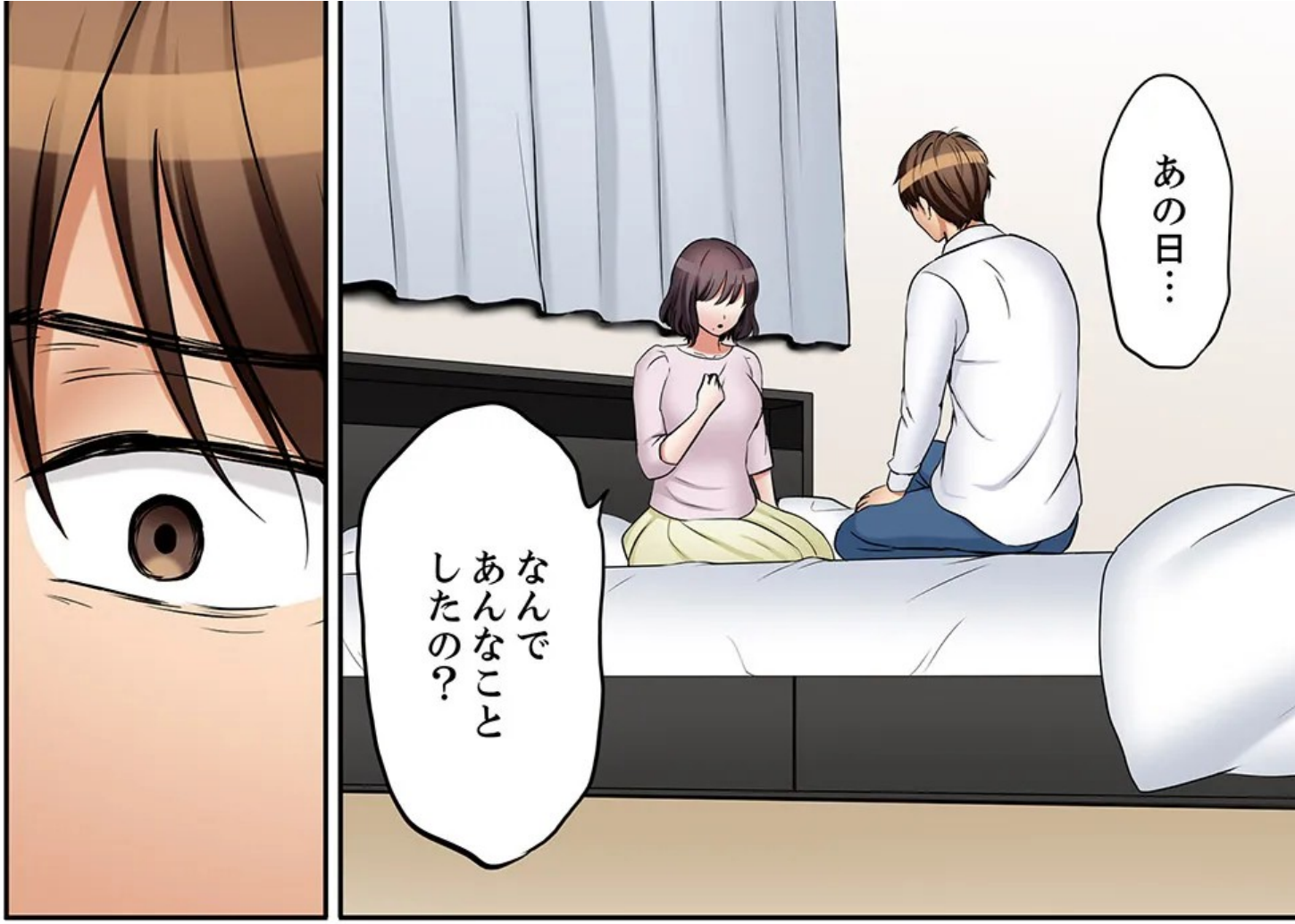
「あと3回はイケるよね？」
夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻
七色風香
61

これは…

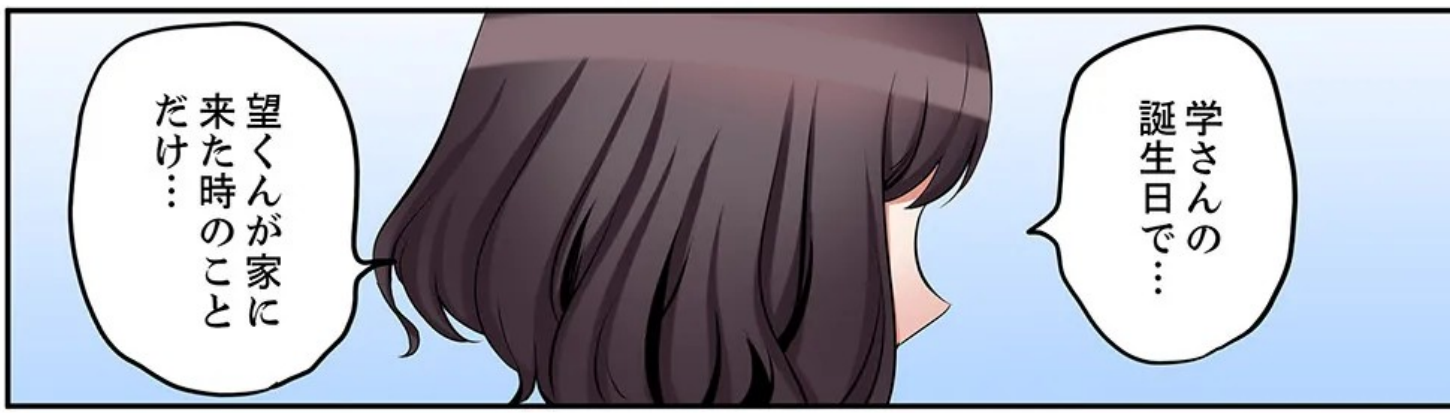
学さんの誕生日の時の記憶…？


今更やめられないよ！
んんッ
プルッ
ズッ
ギッ
いや…
あっ
ギシ
あ
ズッ
ギシ
あん
はズッ
ズッ
んあっ
ギッ
はあっ
はっ
はあっ
望くんに無理やり…
ドクン…
ドクン
ドクン…

シュル…
こんなことしてごめん…
七海ちゃん…？
ハァッ
ハァッ
いやっ
ドッ
ッ
キッ
ビクッ
!?


あの日…
なんで
あんなこと
したの？

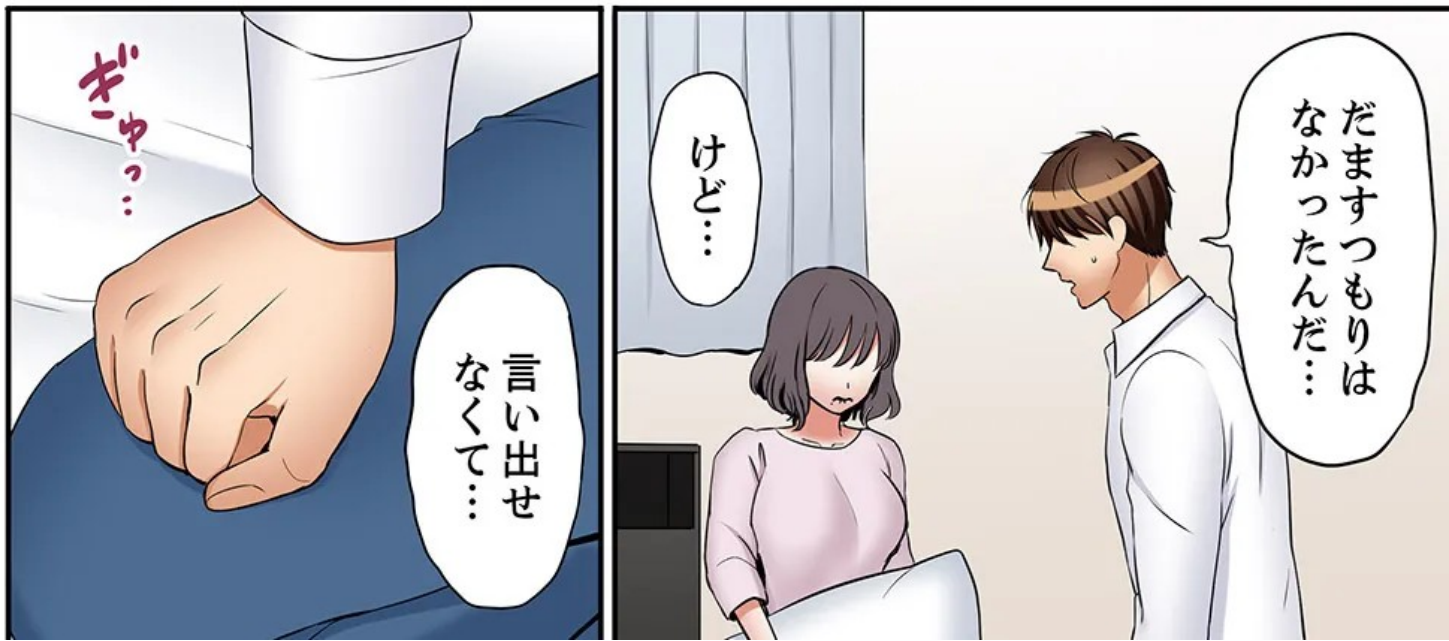
記憶…
戻ったんだね
…


学さんの
誕生日で…
望くんが家に
来た時のこと
だけ…

あんなことしてごめん…
だけど
七海ちゃんを想う気持ちは本物だから
ボスッ
ちょっ…
がっ
七海ちゃん
ボスッ
落ち着いて…ッ
バスッ
私は望くんのこと信じてたのにっ

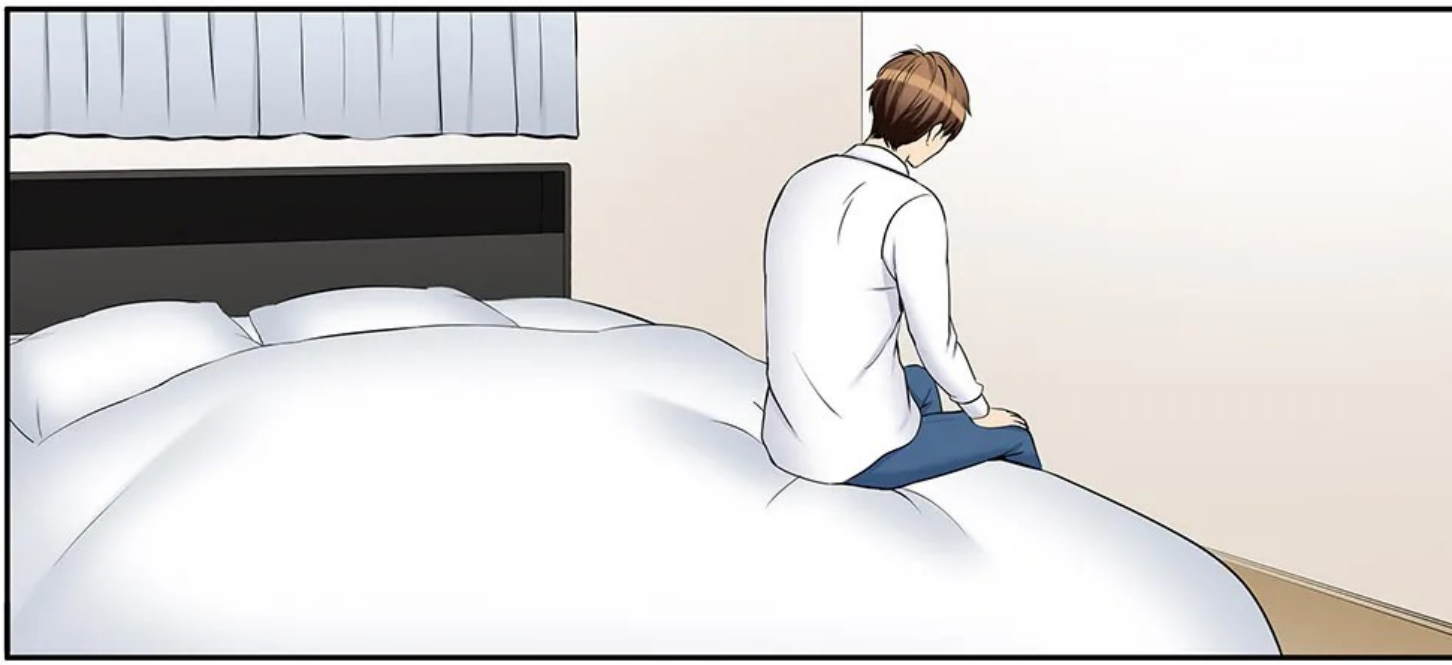
私が
思い出せない
からって…
今まで
だましてたの？

……ッ


だますつもりは
なかったんだ…
けど…
言い出せ
なくて…
ぎゅっ…

七海ちゃんを
愛してるから
失いたく
なかったんだ…！
私の知ってる
望くんは
優しくて
誠実で…
ガヤ

あんなことする人
じゃなかった…ッ



チュン…
チュン…
トン
ぐいっ
おはよう…
おはよ…

どこ行くの？
今日はバイト
午前中だから
早いの
そうなんだ…
俺
車で送るよ
いい
望くんも
仕事だろうし
いってきます
バタン。
あ…

ここに
帰ってきてね…

お待たせ
しました…

クラ…

ハアッ
ハアッ
ハアッ

ちらっ
menu
田村さん(あの人)
また来てる…
他に男が
出来たの？
ゾク。
正直…
この人と
付き合ってたとは
思えない…
menu
ストーカー
だったりして…

七海は
どんどん
望に惹かれて
いって…
ビクッ
あんなことされたのに
キュン
キュンッ
離れようと
しなかったのは
どうして？
そんなにも
望くんとの絆が
深かったの…？

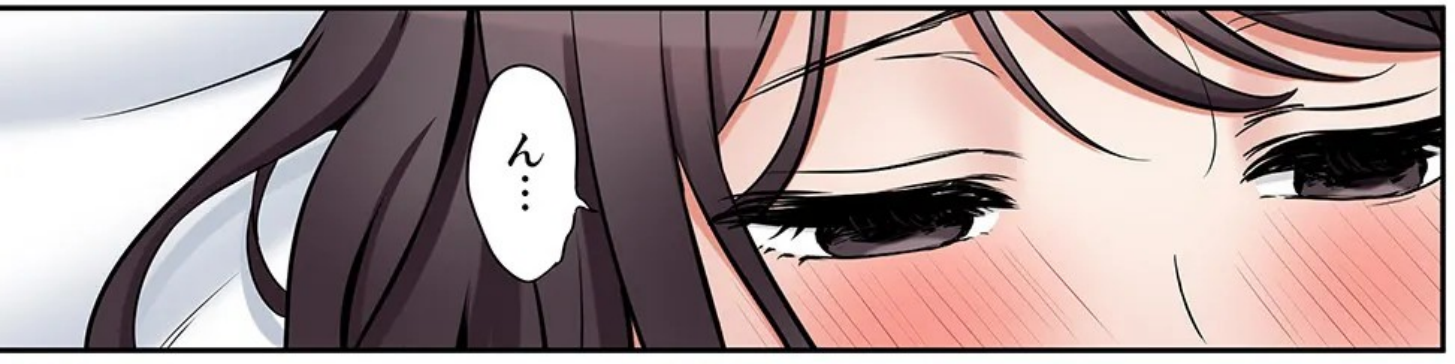
ハァ…
ハァ…
ヨロ…
ドサッ

すごい熱…っ

藤咲さん
どうしたの!?
うぅ…

え?

今日はもう
帰って
休んだほうが
いいわ!
あのぉ~…



あれ…私
なんで寝室に？

バイト中
だったはず
だけど…

大丈夫～？

あの…

なんでこの人がここに…？

藤咲さん
バイト先で
熱出して
倒れたんだよ

それでお店の人に
君の住所
教えてもらって

僕が車で
送ったんだ

そうだったんですか…

あと
風邪に効きそうなもの
薬局で買ってきたから
ここ置いとくね

ありがとうございます…

田村さん…
こんなに親切に
してくれるなんて…

ハァ…
ハァ…

「ストーカーかも」
なんて思って
ごめんなさい…

…熱が高くてつらそうだね
ゆっくり休むといいよ
はい…
すぅ…
す――…
す――…
はぁ～～～
ドスッ

ここが
君たちの
愛の巣か…
ムカつく
なぁ～

あの時
藤咲さんが
寝言で言ってた
男のこと
だったのか…
のぞむくん…

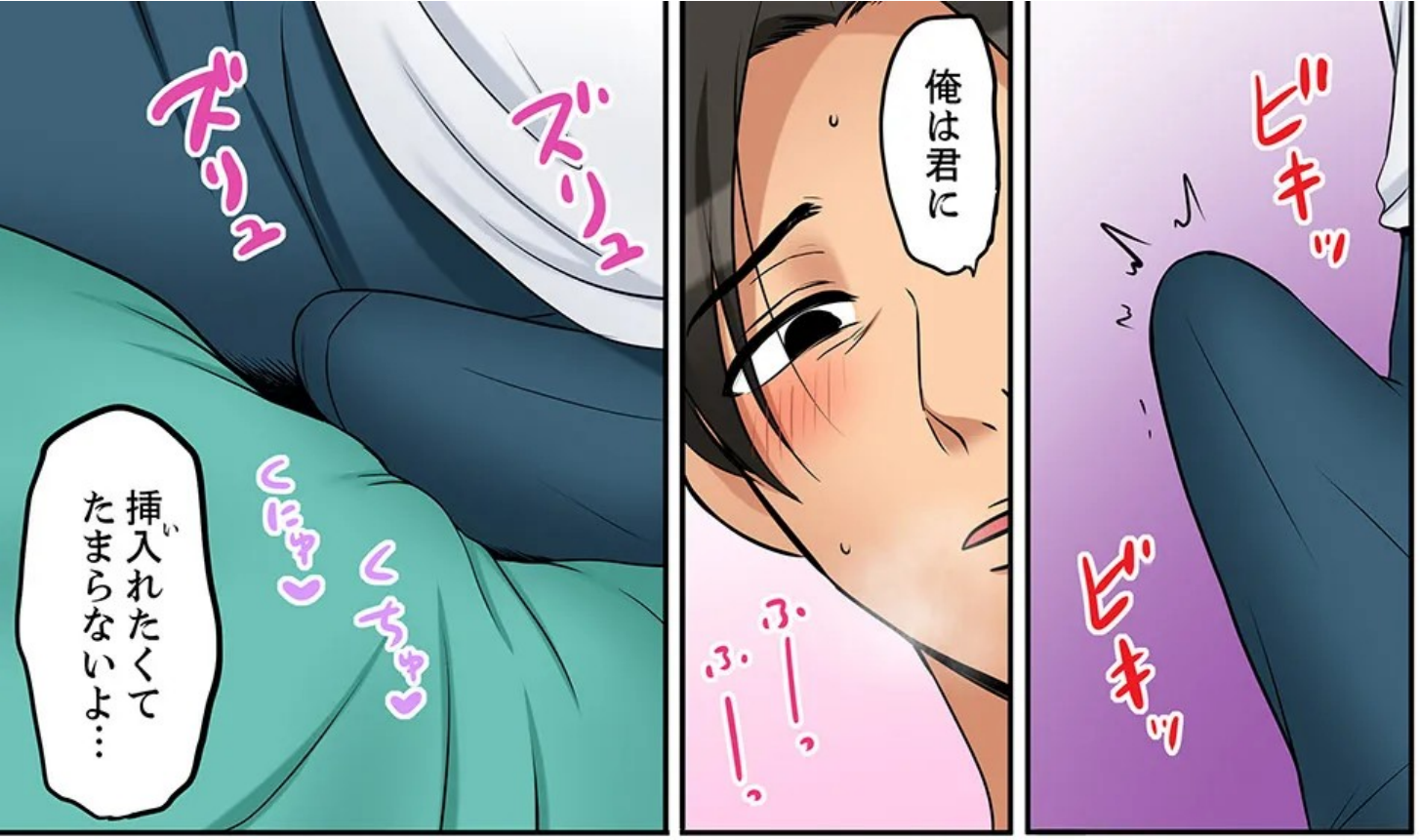
「のぞむくん」
どこかで
聞いた名前
だと思ったら

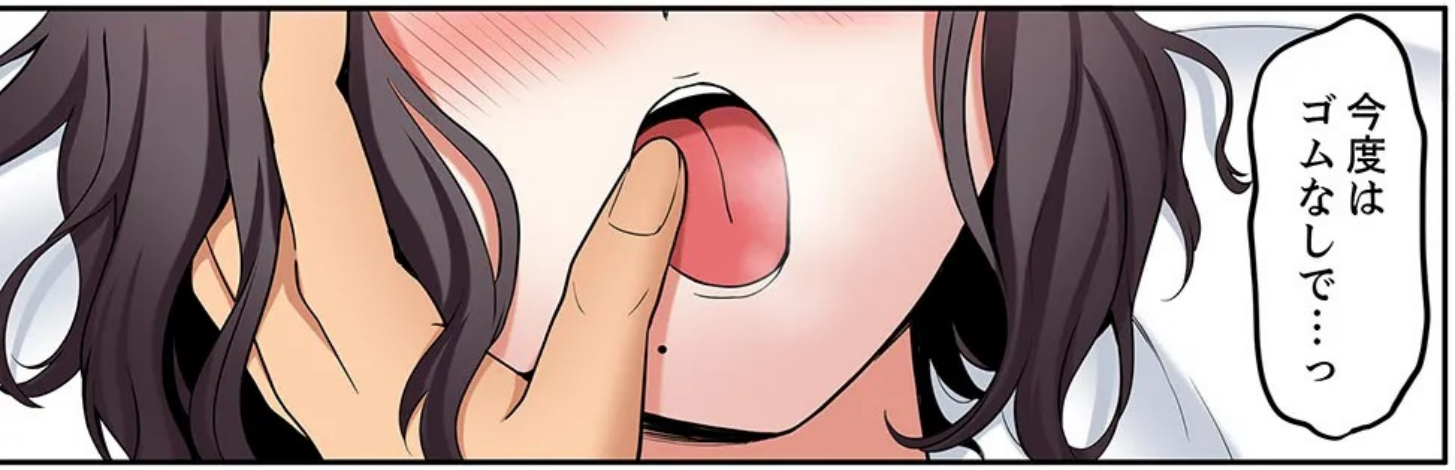
ひどいよ…

僕は君が
戻ってくるのを
ずっと
待ってたのに

藤咲さんッ!!
がばっ
ちゅぷっ
ちゅっ
ちゅっ
ん…
ギシ…
ちゅ…
ちゅっ
ぐいっ
ヌリュ…
ヌル…
ん…

ムニュッ
タプ～ン
はぁ…藤咲さんのにおい…
すうっ…
ぴくっ
ぴくんっ
あっ…
レロ
レロ
レロ
んん…
レロォ～…
ぴくっ
んっ…

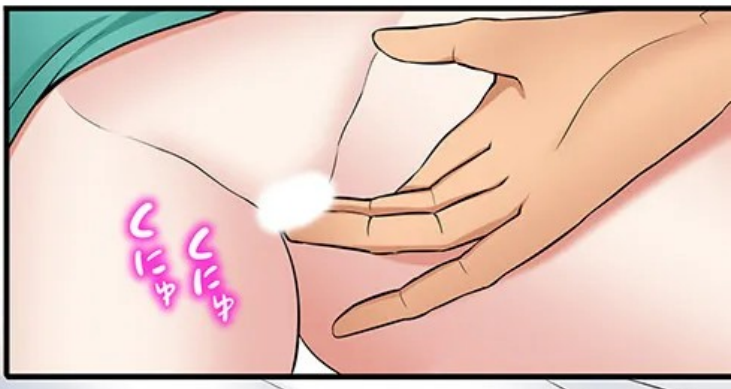

ビキッ
俺は君に
ふーっ
ふーっ
ビキッ
ズリュ
ズリュ
くちゅ♥
にゅ♥
挿入れたくて
たまらないよ…


今度は
ゴムなしで…っ

君を
孕ませれば
望も
引き下がる
はず…

クイッ
くぱ…

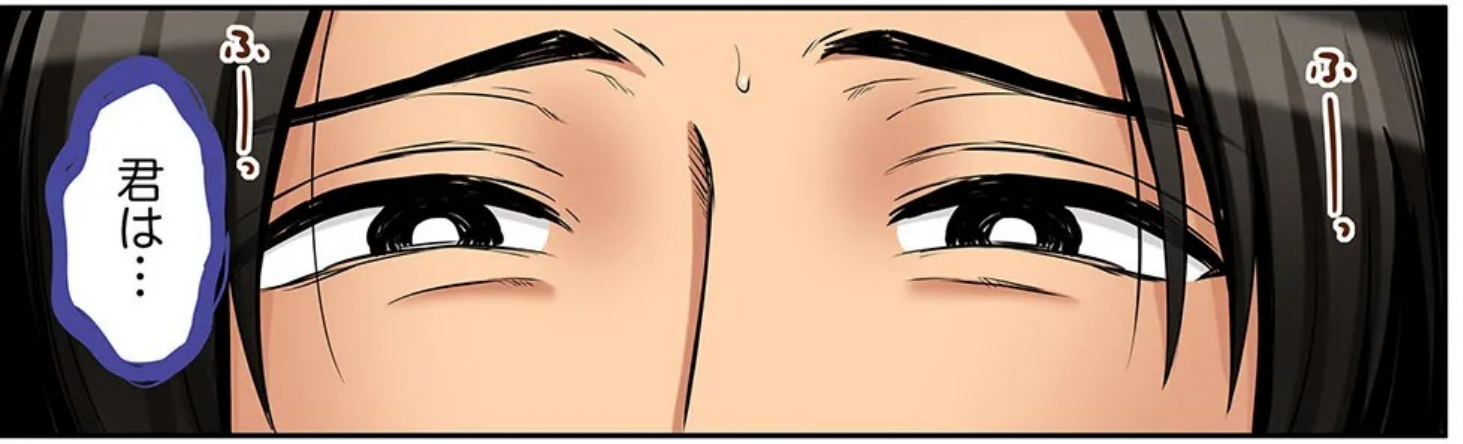
まだ全然
濡れてないな…


くにゅ
くにゅ

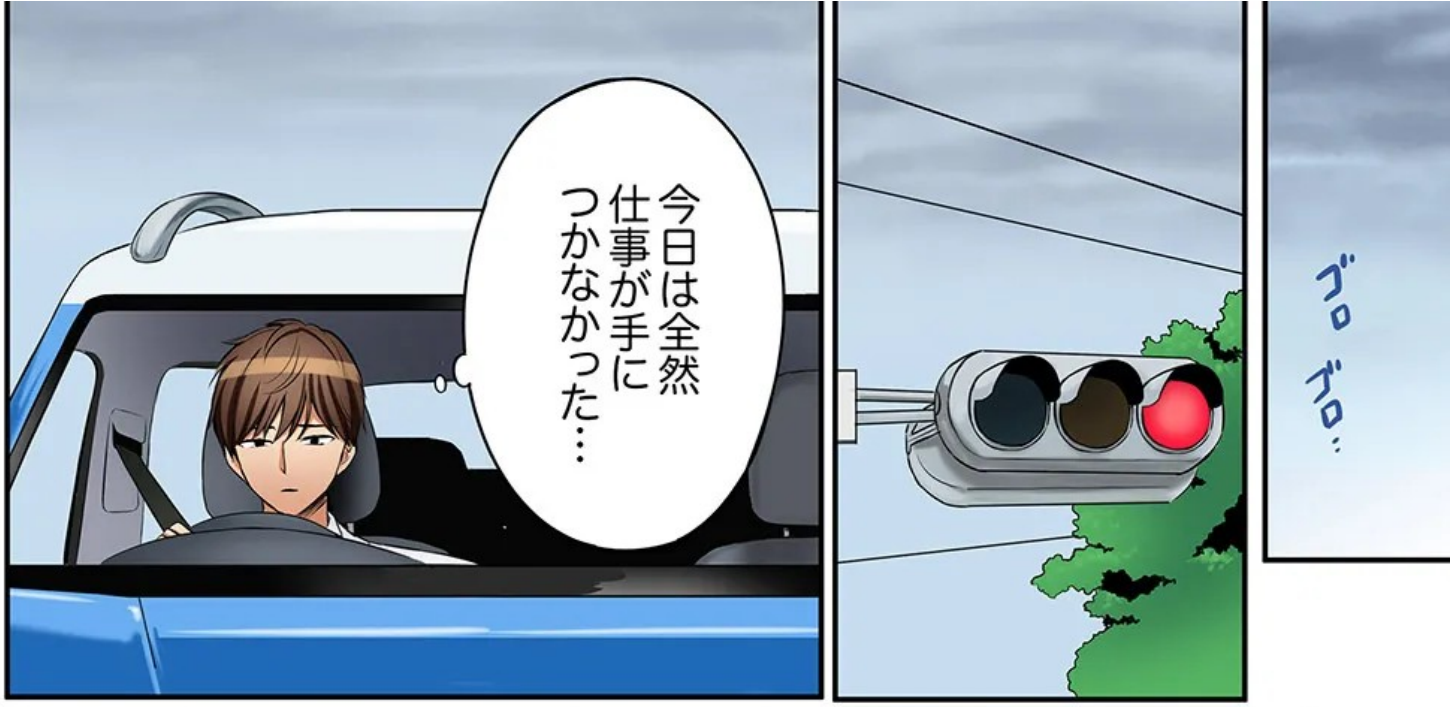
痛くないように
じっくり
慣らして
あげないとね…
ピチャ…

大丈夫だよ
いきなり
挿入れたり
しないから
ギシ…

んん…
ん…っ
レロ♡
レロ♡
スリ♡
スリ♡


ふ…
ふ…っ
君は…

僕の天使でいるべきだ…！
うぅ…


今日は全然
仕事が手に
つかなかった…
ブロ ブロ…

七海ちゃん
もう帰って
来てるかな？

早く帰って

七海ちゃんと
話したい…

「あと3回はイケるよね？」夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻61

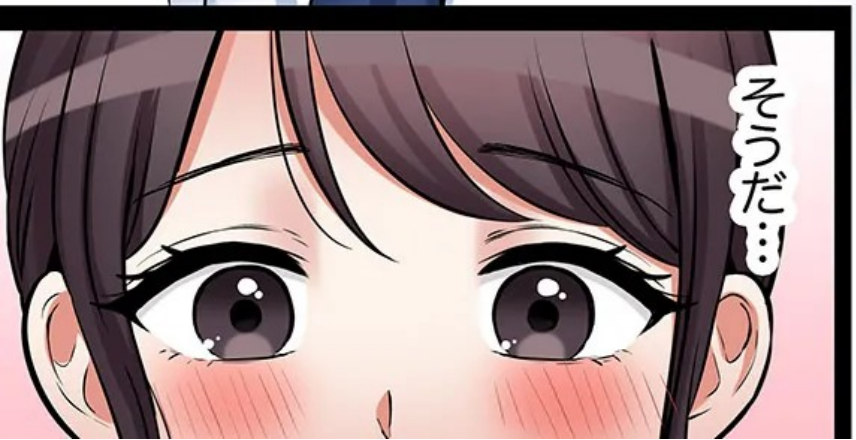
著者　七色風香
発行　モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR

「あと3回はイケるよね？」
夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻
七色風香
62

私…


そうだ…!

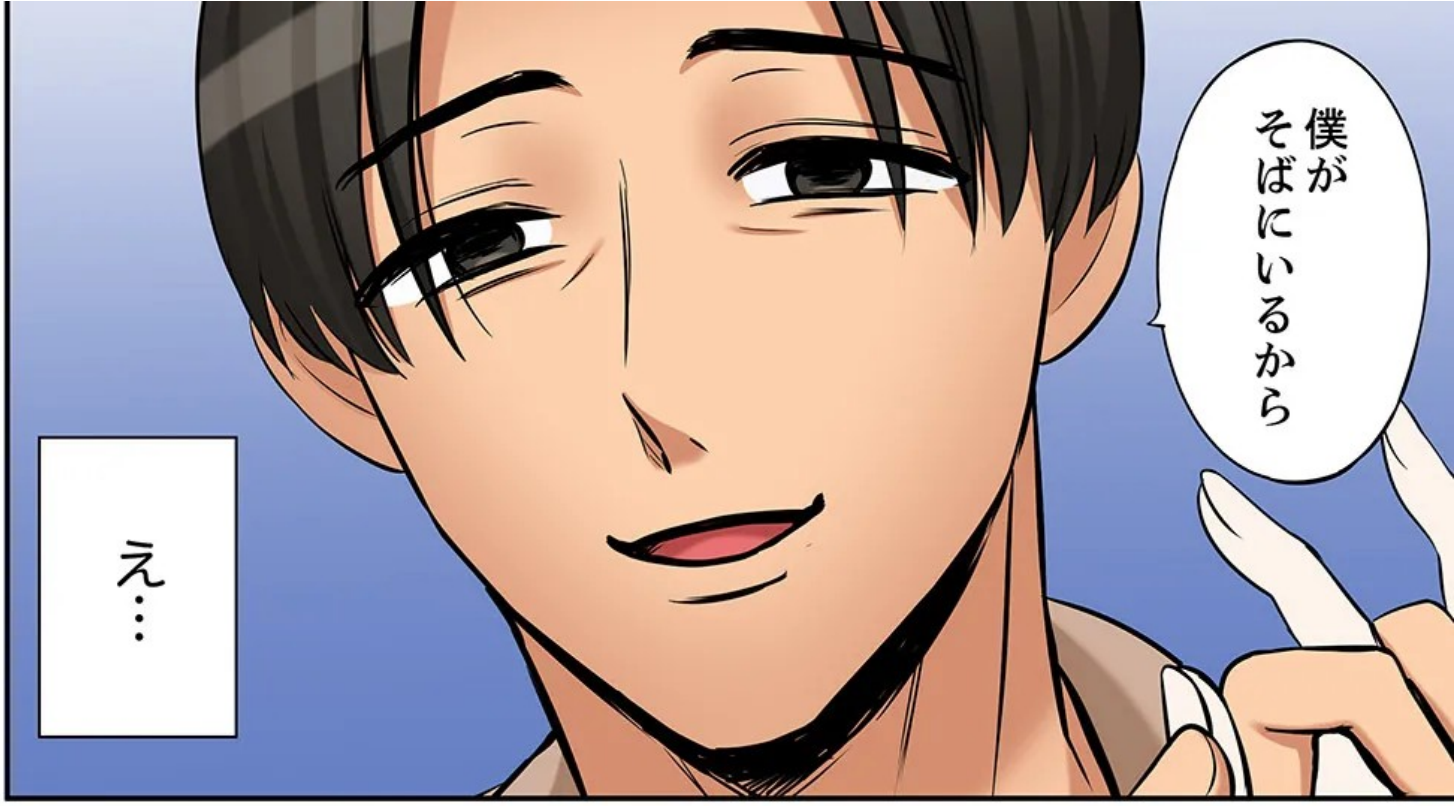
どうしてここに…?

七海ちゃんを
連れて来れて
良かったよ

ちゅく
ちゅく
あぁ…
ムプ
ムプ
ムプ
クニュ
クニュ
グチッ
グチッ
ん…
ビクッ
あ…
レロ
レロ
クリ
クリ
ビクッ
あんっ
あっ
ちゅっ
ちゅっ
望くん…っ
ハアッ
ハアッ

えっ…？
誰といるの…？
望くん…
ねえ！

行かないでっ
大丈夫だよ
望くん…


僕がそばにいるから
え…

あ…そっか
ぼーー…
私バイト先で熱出して
田村さんに家まで送ってもらったんだ…

スリ…♥
手柔らかいね
ズれっ
バッ
？…

ぎゅっ
キャアッ
ばっ
今更恥ずかしがらないでよ～
どういう状況なの…!?
藤咲さん…っ
がばっ
や…やめてくださいッ

ヌル
ヌル
クチュ…
すっ
ピクッ
身体の中も
ほぐれたし…
ビクッ
ッ…
んっ
もう…
挿入れても
いいでしょ？
ハグッ
藤咲さん!!
ガッ
やめてっ
い、嫌ァッ

僕は君を諦めないよ！
……
ッ…
そんなに望という男がいいのかい!?

がぶッ
キャあッ
ハァ
クニュ
クニュ
ハァッ
身体の…
相性…？
僕のほうが
君に相応しい
はずだ！
身体の相性だって
あんなに
良かったんだから…

君だって
気持ち良さそうに
喘いでいた
じゃないか
覚えてはいない
だろうけど…
ギシッ
あ…ん
あっ…

そ…
そんな…う
私この人と

そこまでの
関係になってたんだ…
ビクッ
ちゅうう
うう
キュッ
さすっ
びくっ
や…ん
あぁ…

これから
思い出させて
あげるよ
カチャッ
いやっ
今はもう…
ギシ…
ズルッ
あっ…
恋人だったとしても
ドシャッ

藤咲さん！
ズキン…
ぴり…
こっ…
起きちゃった…
ズキン
ズキン
ズキン
ズキン
さっきのジュース
睡眠薬入りだったんだ
ちゃんとゴムしたから安心して

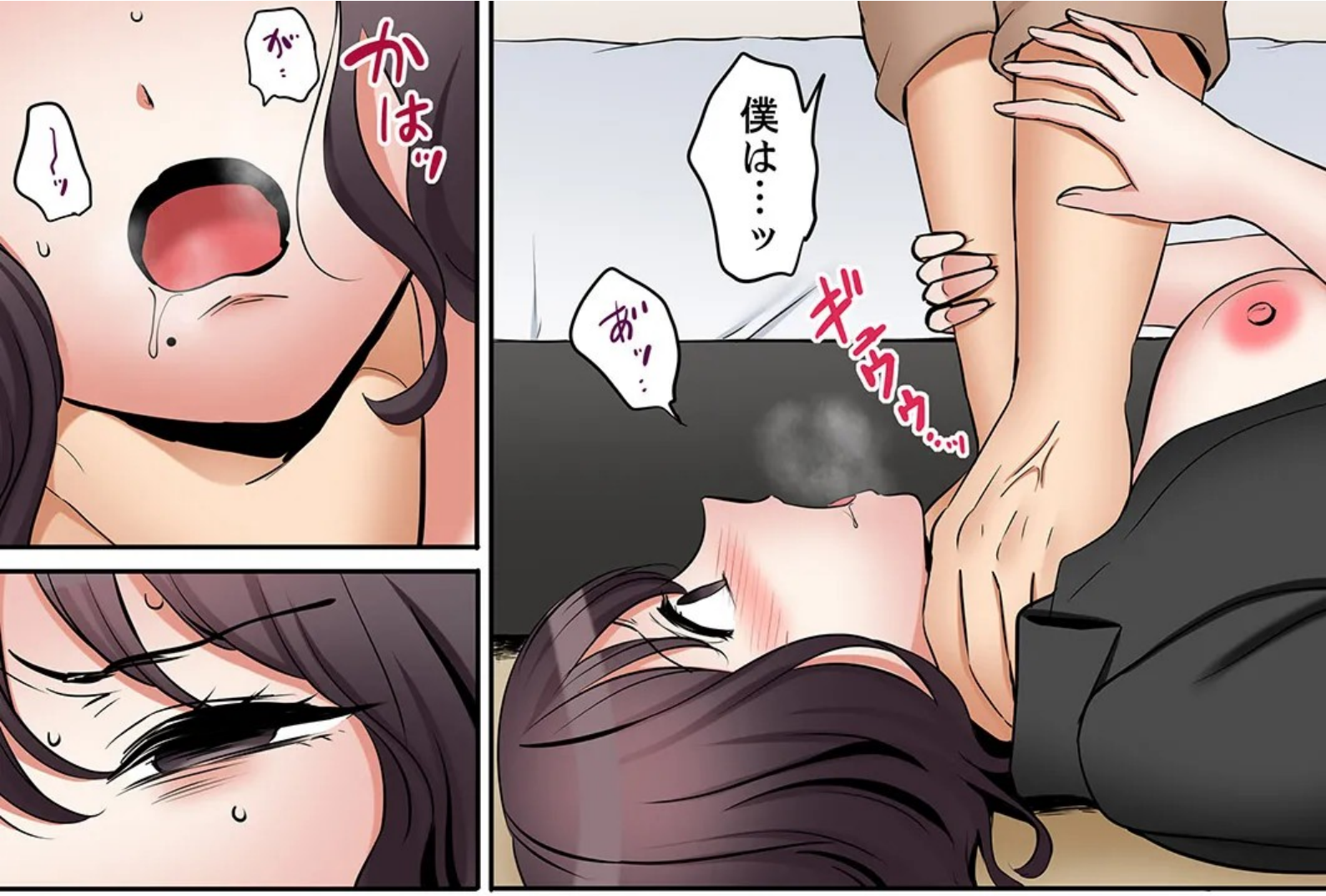
ああ…私
大丈夫かい
この人に職場で
藤咲さん
来ないでっ
!!

恋人同士なんて…
やっぱり嘘なんですね！
ッ…
出て行ってください！
今すぐに！
今度こそ通報しますからっ
チッ
残念…
魔法が解けちゃったね…

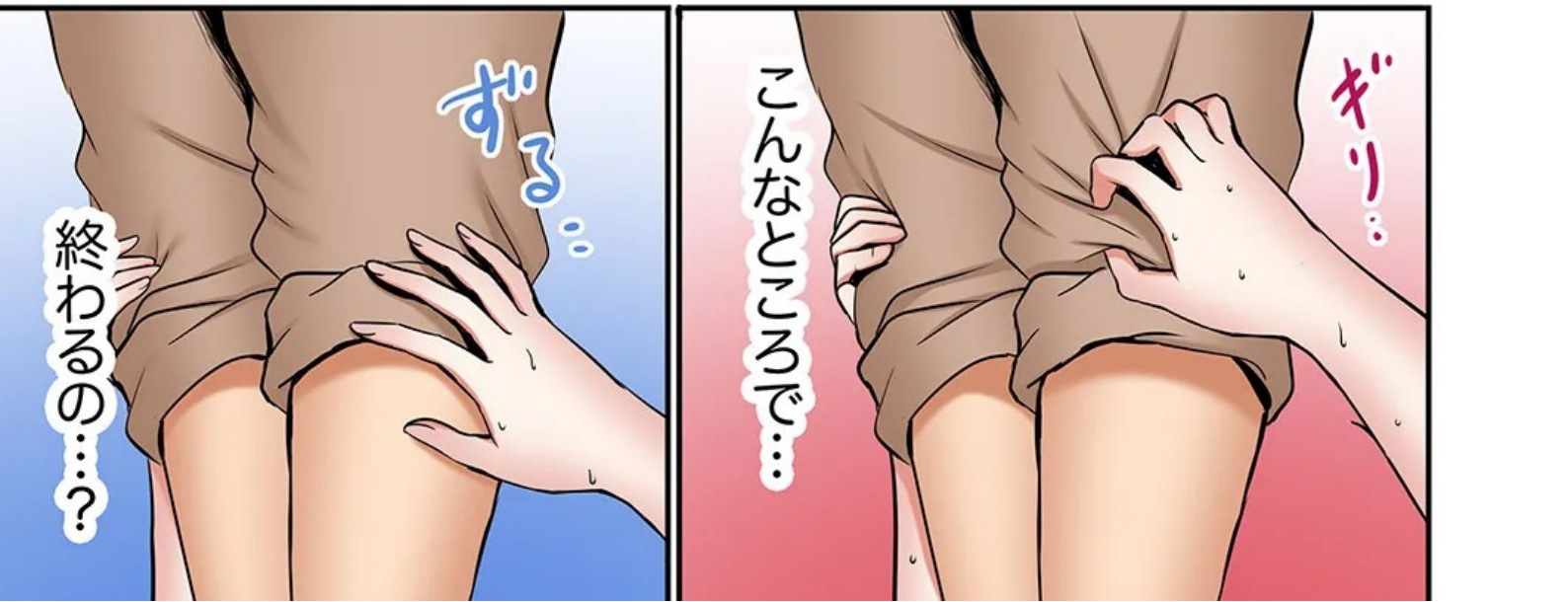
ナガ
ッ
ぐ
ぐ
ぐ
？
ドシャ

うぐっ…
君なら
ミシ…
僕の心の痛みを
理解してくれるって
思ってたのに…っ
なんでわかって
くれないんだよ!!

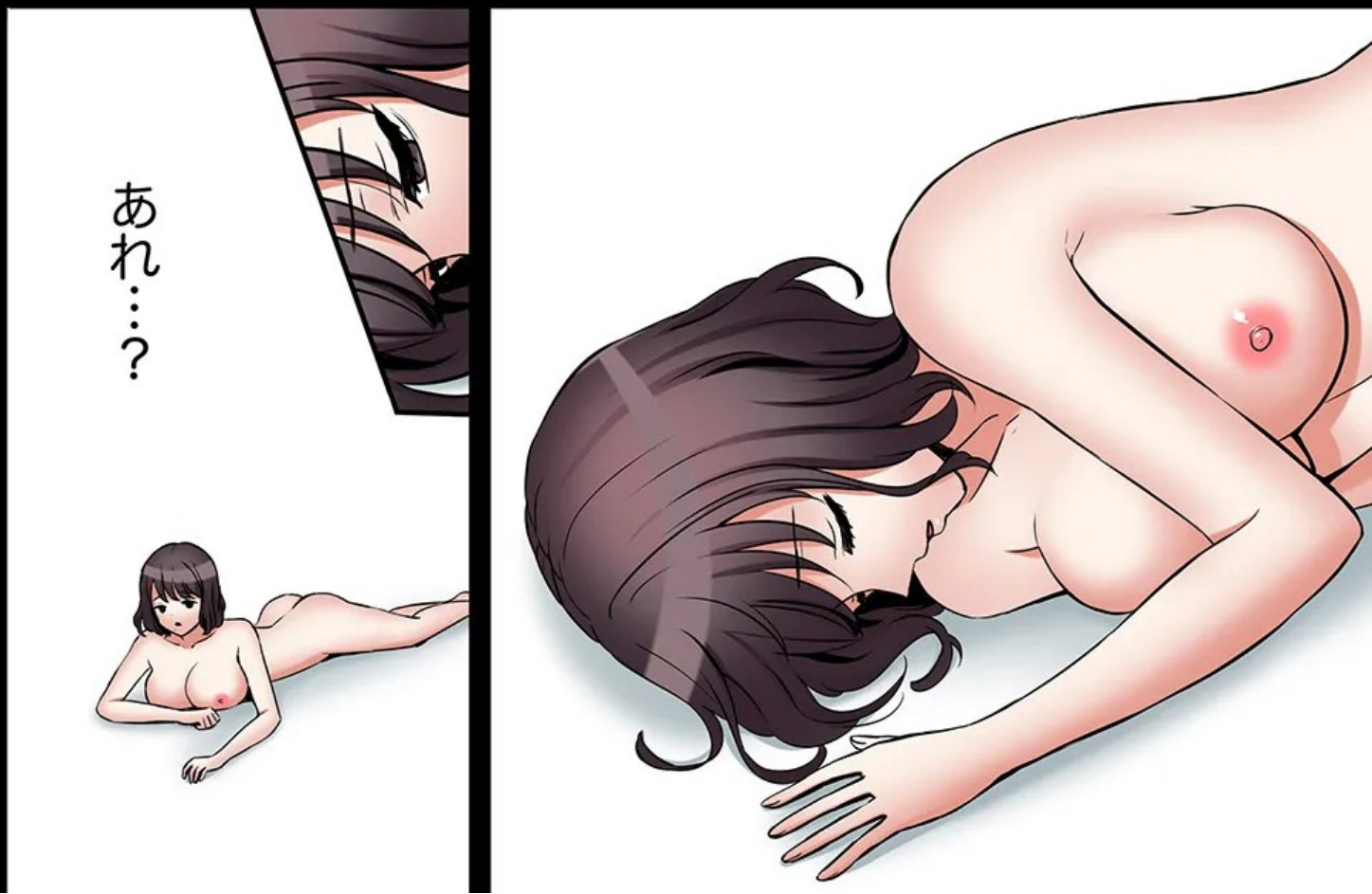
職場では
部下から
馬鹿にされ…
家へ帰っても
独りぼっち…
僕には
何もない…
君がそばに
いてくれない
なら…


かはッ
が…
～ッ
僕は…ッ
ギクク…ッ
あッ…

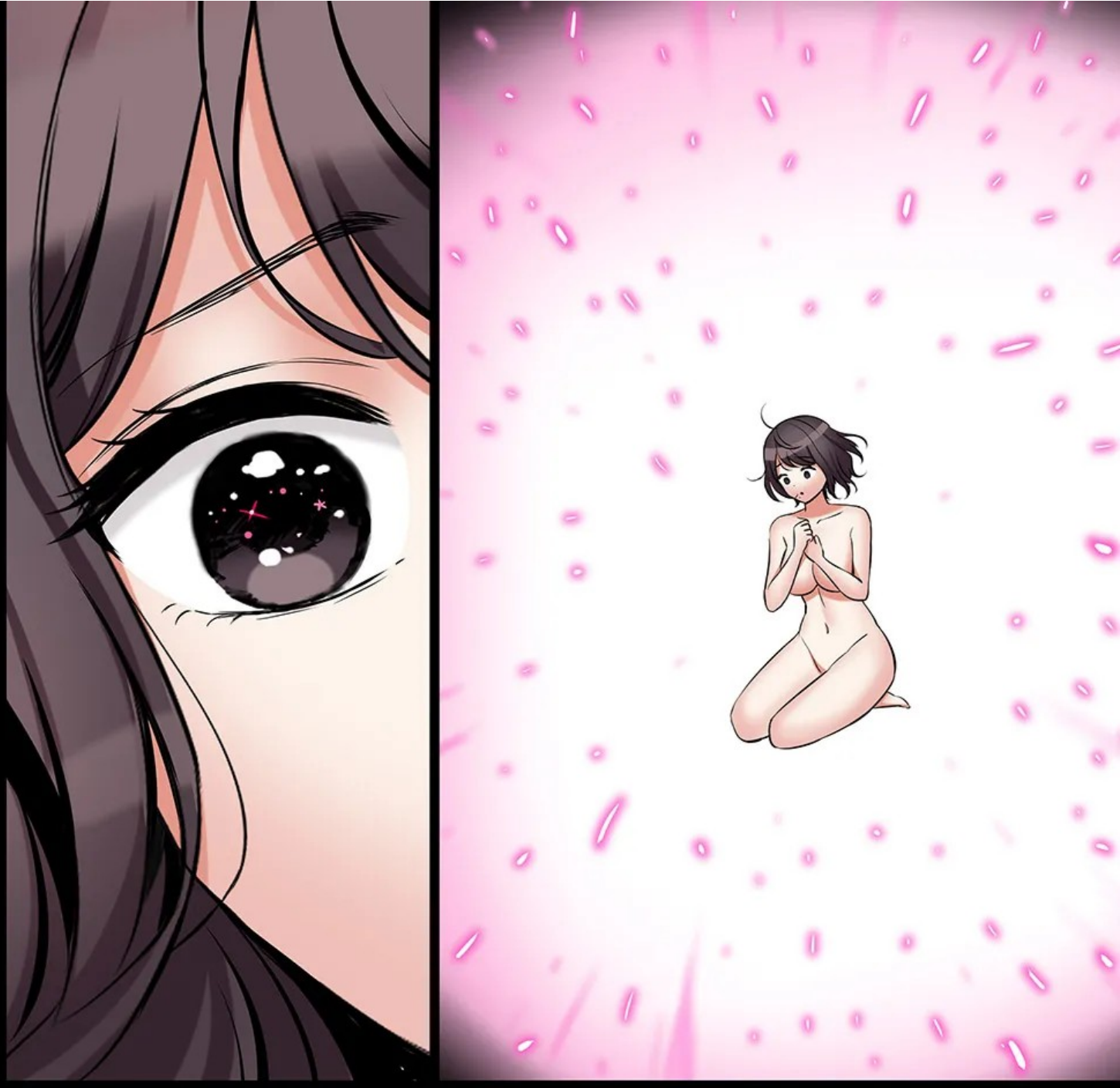
う…そ…


ずる…
終わるの…？
こんなところで…
ギリ…

今朝望くんに
笑顔で
「いってきます」って
言えば良かった…


あれ…？

私…死んだの？
まさか
こんな終わり方
するなんて
思わなかった…
何…これ？



これは…

失ってた記憶？

こんなに
色々なことがあったなんて…
ビクッ
ビクッ
びゅくっ

やっと全部
思い出せた…
私…
自分が思ってた
よりもずっと
望くんのことが
大好きだったんだ…

「あと3回はイケるよね？」夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻62

著者　七色風香
発行　モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR

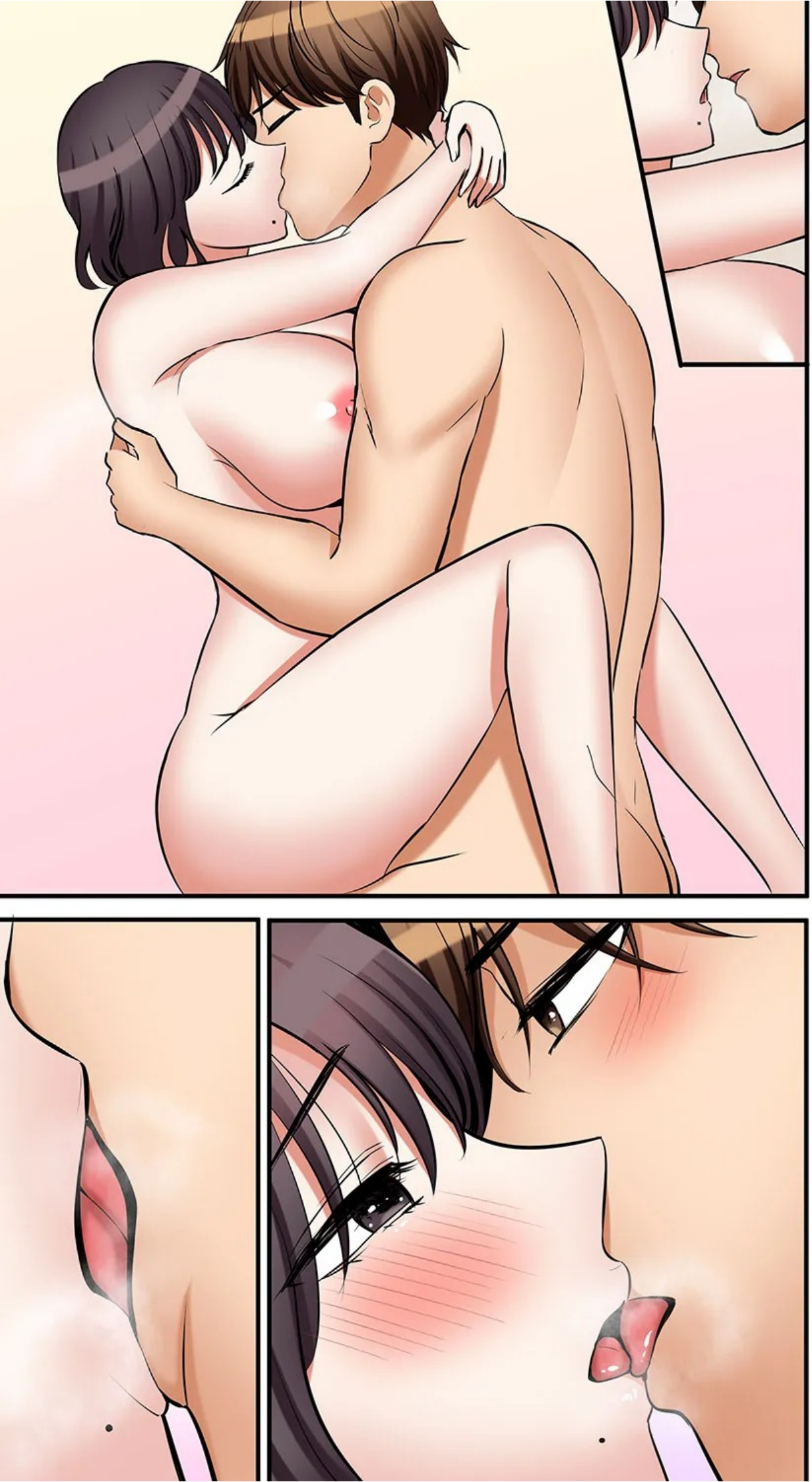
「あと3回はイケるよね？」
夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻
七色風香
63

あの頃の俺は
兄貴を負かしたくて
必死だった

だから最初は
「兄貴の
大事なもの」を
奪いたくて

それだけの
理由で
七海ちゃんに
近づいた
望くん
ダメ
だってば…
あっ…

兄貴の
悔しがる顔が
見たかった



だけど…今は違う

レロ♥
レロ♥
あ…
レロォ～～
あっあ♥～…
チュッ
チュッ
んっ♥
ハァッ
ハァッ
ん…
んっ♥
あ…♥

もっと気持ち良くしてあげる
れろぉ～
あッ
ビクッ
あっ
あ…ダメっ
ちゅく ちゅ
レロレロ
あんっ
ビクッ
そんな激し…
ビクッ
あぁ…
ふっ
ちゅうううう
あ…っ
あっ
は…
あ…

ドサッ
ズリュ♥
ズリュ♥
っ…
ん…
くぱぁ…♥
いいよ
きて…
七海ちゃん
あ…ッ
メプッ
俺もう…
トキン
トキン
トキン
はあっ
はあっ

ちゅっ♥
ちゅっ♥
はっ
んっ
んっ
ちゅっ♥
レロレロ♥
ちゅっ♥
んっ♥
あ♥
あんっ♥
あっ♥
パンッ
パチュッ
パチュッ
パン
パンパチュッ
パン
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ふーっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
ビクッ
ビクッ
んっ♥
ビクビクッ
ビュルルルッ
ビュッ♥
ビクッ
ドクッ
ドクッ

望くん…

七海ちゃんが
ギュウ…
愛しくてたまらない
君を幸せにしたいし
笑顔が毎日見たい

泣いていると
俺も悲しいんだ

そのことを
ちゃんと伝えよう

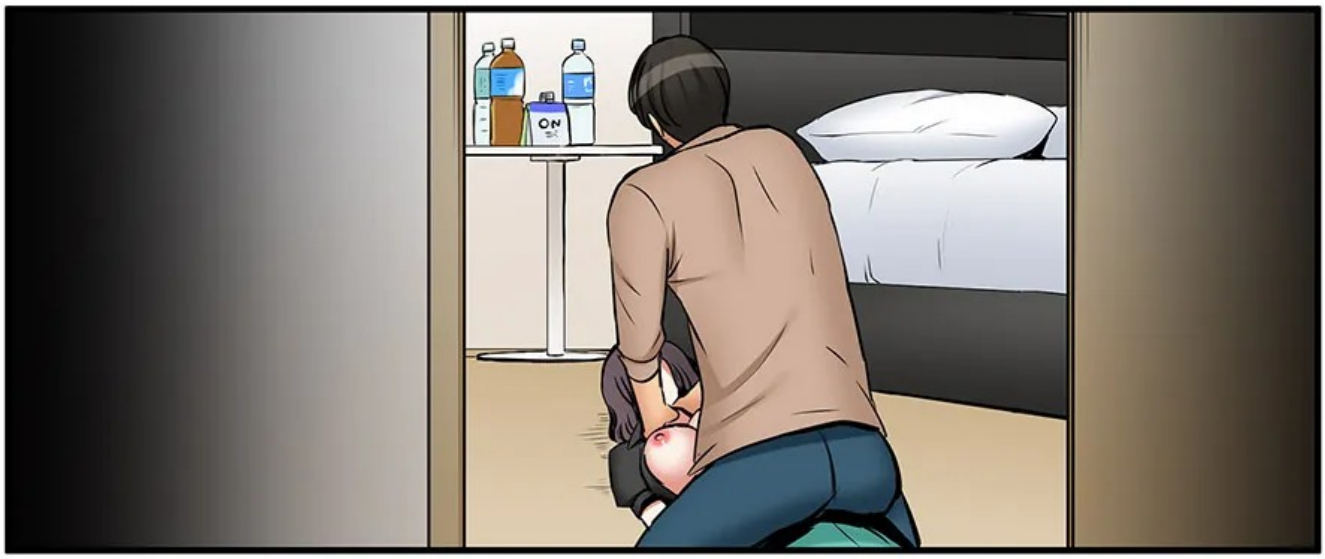
何度だって

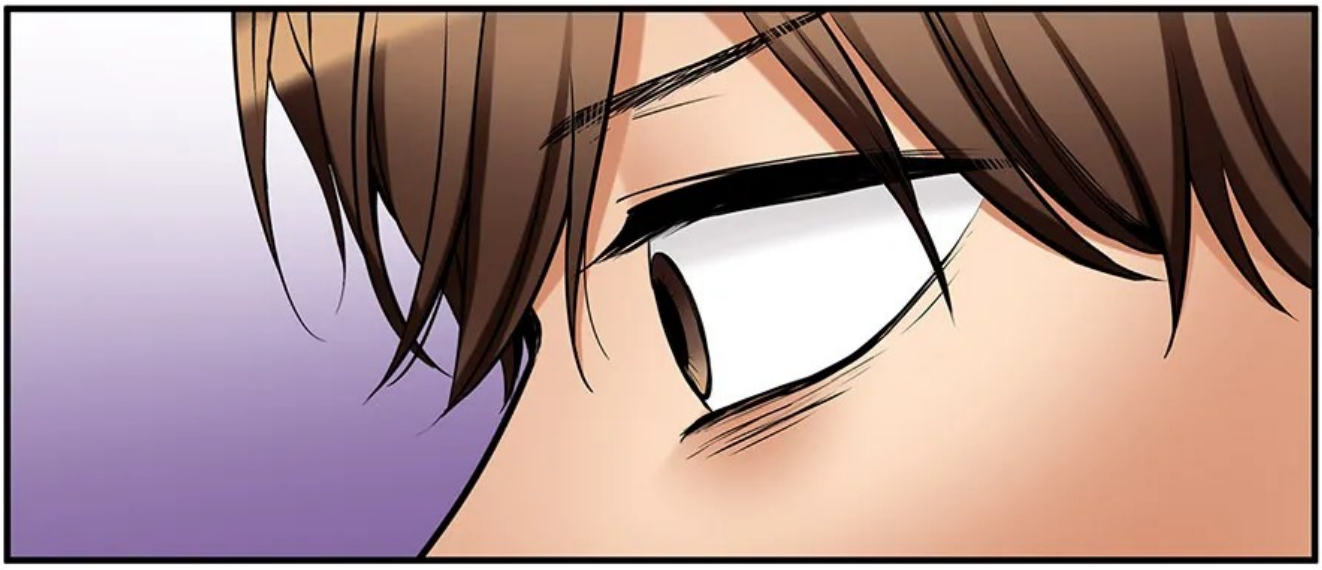
わかってもらえるまで

七海ちゃんが
納得できるまで…

しん…
ガチャッ
七海ちゃん
ただいま
まだ帰って来てないか…
誰か来てる…？
七海ちゃんの靴もある…

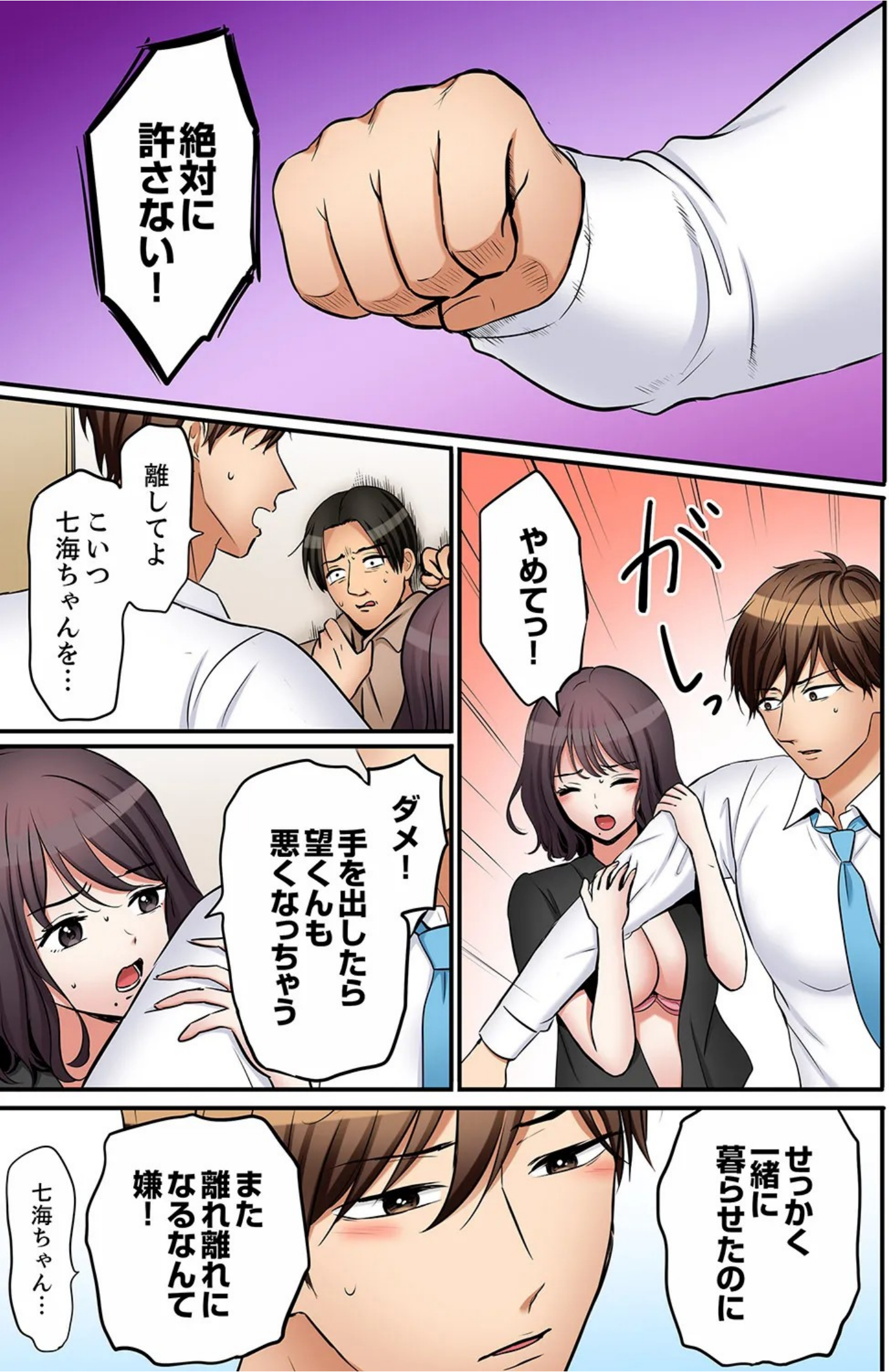
うぅ…
！
寝室から声が…
まさか
あの男と…
カチャ…
ドクン…
ドクン!!
なんで…


ON

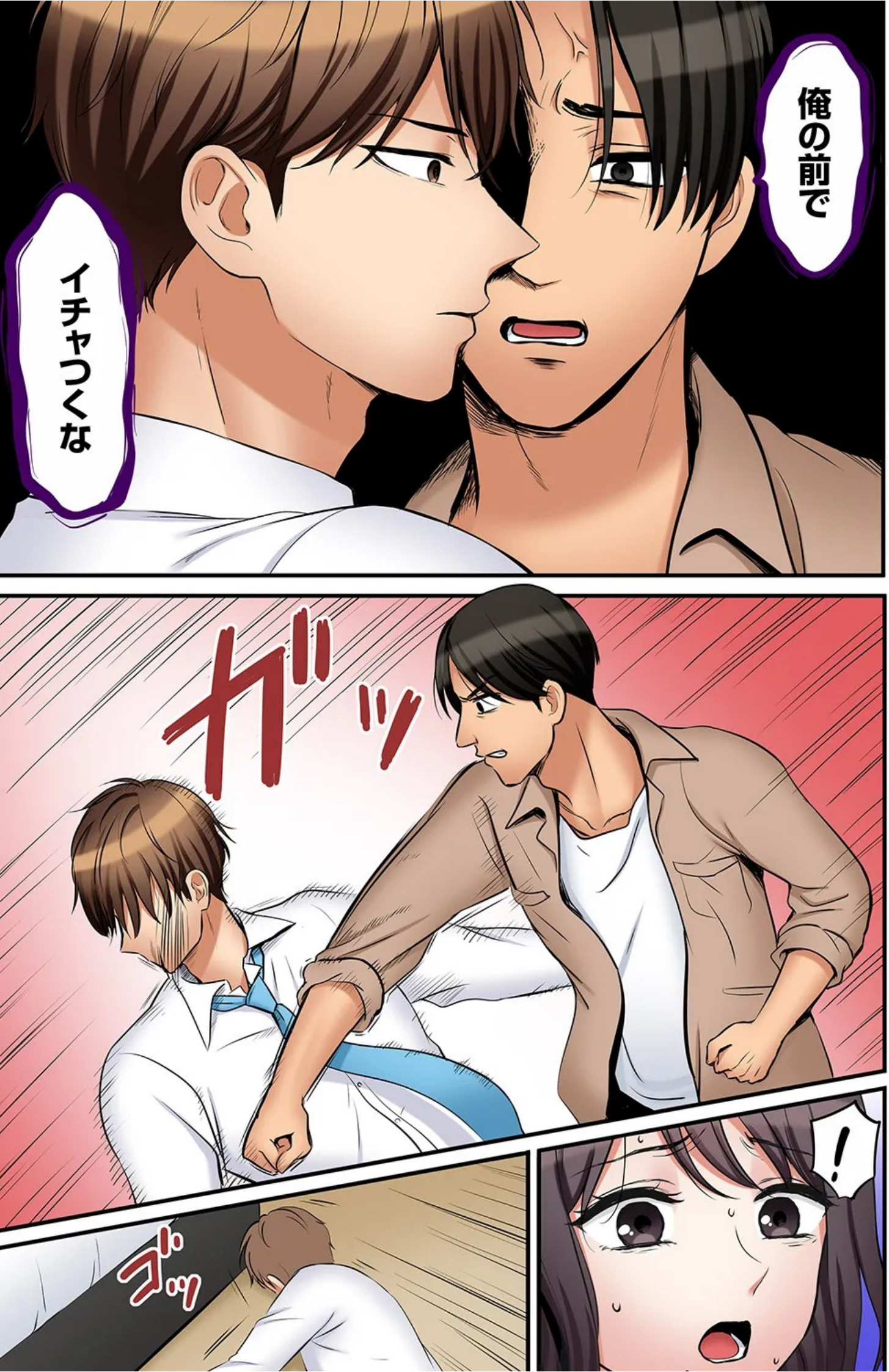


あれ…？
私…
生きてる？
ズキッ
!?
がばっ

望くん！
お…
落ち着けって…


絶対に
許さない！
がしっ
やめてっ！
離してよ
こいつ
七海ちゃんを…
ダメ！
手を出したら
望くんも
悪くなっちゃう
せっかく
一緒に
暮らせたのに
また
離れ離れに
なるなんて
嫌！
七海ちゃん…

記憶が
戻ったの
良かった
そっか…


俺の前で
イチャつくな
ガッ
ゴッ
！

ずる..
望くん！
お…おい…
起きてっ
望くん！
救急車っ
スマホは…
がしっ
藤咲さん
何
言ってるの
！

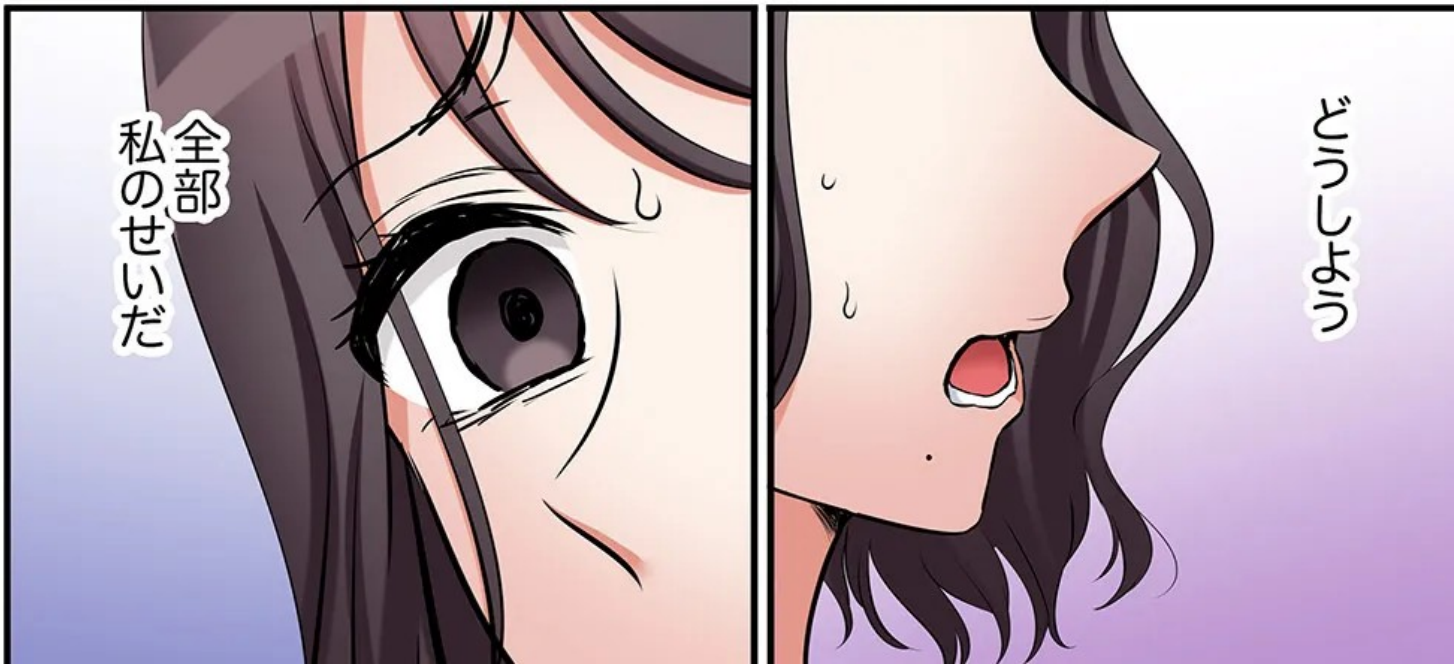
救急車なんて
呼んだら
僕が
捕まっちゃう
じゃないか…！

意識が
ないから
早く病院へ
連れて
行かないとっ

ぐ!!
うるさいっ!!
おっ

この家を出るっ！
来い！
早く俺の車に乗るんだっ
そんな…
いやっ！

離してっ！
望くんが…


どうしよう
全部私のせいだ

私が
あのファミレスで
働かなければ…

いや…それよりももっと前

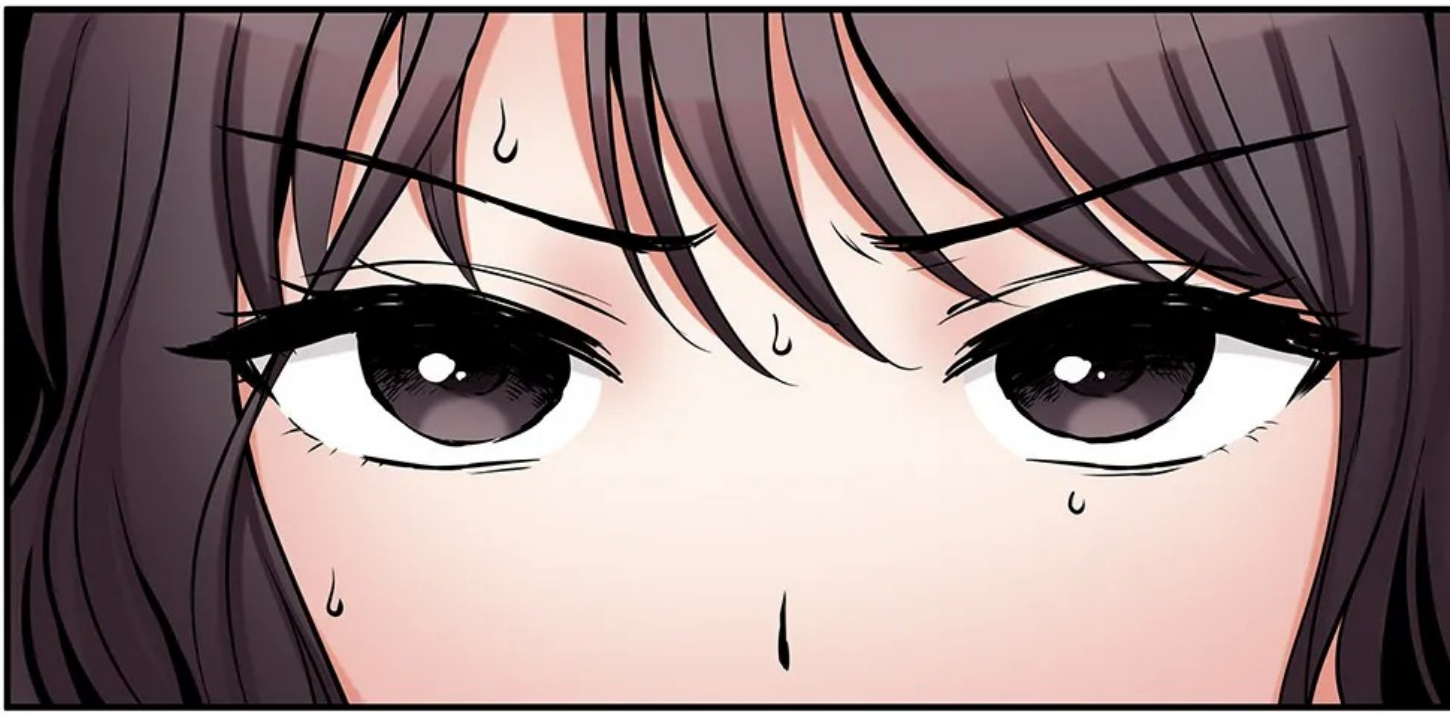
この人と
知り合って
なければ…

私が学さんと
出会わなければ…

俺と
結婚してくれて
ありがとな
ハッ
ギュッ
そんなこと
思っちゃダメ！
学さんとの
結婚生活が
私を成長させて
くれたんだから

なんとかしないと
ドタ
ドタ
ドタ
車で連れ去られる前に
この危機から抜け出す方法を見つけないと
もし失敗したら
今度こそこの人に殺されそうだけど…
一刻も早く望くんを病院で診てもらわないと！

望くんは



私が守る

「あと3回はイケるよね？」夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻63

著者　七色風香
発行　モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR